

### 1、一人ひとりの生涯にわたって、身近で頼りになる生協

ライフステージごとに変化するニーズにこたえ、いつでも頼りになる生協を目指します。また、水道や電気のように生活に必要な基盤として認められ、どこにいても身近で頼りにされる存在となります。

- 仕事や子育てに追われ余裕のない若い世代が暮らしの中でゆとりある生活ができるよう、ニーズに沿った商品をそろえ、安心して買い物ができるくらしのセンターと共同購入事業を広げます。
- 高齢世代が暮らしの中で感じる不安や不便さに向き合い、住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けられることを支えます。毎週おつかがいする共同購入事業やせいきょう便を通して、より身近なところで、一人ひとりにあった対応を目指します。
- 多様なニーズにこたえられる学習会や組合員活動を増やし、生きがいを持って暮らせるよう地域の組合員同士の交流の場を広げます。



### 2、より多くの組合員の声が反映される運営参加の場

さまざまな世代やライフスタイルの異なる組合員が参加しやすい環境を整え、組合員一人ひとりの声を受け止めて、多様な価値観が尊重される運営の場を実現します。

- さまざまな世代の興味関心にあった、参加しやすい活動や運営参加の場を広げ、その人のライフスタイルにあった参加が出来る生協を実現します。
- 組合員一人ひとりの声を受け止め、1つの声により多くの組合員にとっての価値へとつながる改善を進めます。
- 生協の事業や活動を分かりやすくお伝えするとともに、必要とする方へ欲しい情報をつなげます。



### 3、安心して暮らせる地域社会を目指す生協

地域社会の一員として行政や諸団体と連携しながら、「SDGs (持続可能な開発目標)」がかかげる、誰一人取り残さない地域社会を目指します。

- 地域社会の一員として行政や諸団体との連携を深め、食品ロスの削減と生活困窮者支援に向けたフードバンク・フードドライブへの理解と協力の輪を広げます。
- 生協の事業や活動のインフラを活用し、買い物支援、災害時支援や高齢者の見守りなど地域が抱える課題や要望に取り組み、地域で孤立せず組合員や地域とつながる居場所づくりを広げます。
- 生協のCO2排出量の削減、再生可能エネルギー中心のコープでんき「ココエネ」の普及、4R運動\*を広げ、持続可能な社会を実現します。
- 産直や地産地消の取り組みを前進させ、食料自給率の向上と地域経済振興、自然環境の保全に取り組めます。



### 4、毎日の食を安心して利用できる生協

安心して利用したい、健康的な食生活を送りたいという組合員の願いを実現する事業と活動をすすめます。

また、生産者と組合員の信頼関係を深め、地産地消を推進します。

- 組合員が安心して利用できる品質管理のもと、さらに健康や環境に配慮した商品の取り扱いを増やします。
- 食を取り巻く問題を学習し、消費者の立場にたった食の安全行政を求めています。
- 産直を通じて生産者と組合員の信頼関係を深め、持続可能な地域づくりをとものにすすめます。



### 5、生協で働くもの同士が、感謝し認めあう組織

職員一人ひとりが、仕事にやりがいをもち、お互いを認め合う事で成長し、いきいきと活躍できる職場を目指します。

- 組合員から、信頼される職員を目指します。
- 職場内の円滑なコミュニケーションによって、お互いが認め合い、協力し合う職場風土を築きます。
- 共立社が指すものを理解し、仕事にやりがいをもちながら、成長できる職員を目指します。



### 6、安定した事業運営と県内世帯の過半数の組織

安定した事業運営と県内世帯の過半数の組合員が参加する組織となつて、山形県において生協共立社の役割をより発揮していくことを目指します。

- 安定した事業運営により、組合員の願いにこたえる事業を継続的に発展させます。
- 県内世帯の過半数の組合員が参加する組織となつて、山形県になくはならない存在となる事を目指します。



### 医療生協やまがたとの連携協定 「協同のあるまちづくり 2030年ビジョン」

生協共立社と医療生協やまがたは2017年9月に「地域に総合生活保障体制の確立をめざす生協運動を推進するための協定書」を締結しました。そして、協定の具体的実践として「協同のあるまちづくり 2030年ビジョン」を策定し、両生協が連携して2030年までに地域で実現する目標を定めることを課題として協議を重ねてきました。情勢や地域の課題を踏まえ、「10年後のありたい姿」を議論する中で、単に生存できている状態ではなく、より積極的に「健康でいきいきと」「つながることができる」姿を目指すことをビジョンの方向性としてしました。

#### メインテーマ 健康寿命を延ばし、暮らしやすい住みやすい地域を実現する

- ① ひらかれた生協・地域の隅々まで浸透している生協・いつでも・どこにも・誰のそばにでもCOOP!を目指す。
- ② 多様な世代が集い支えあい、人とつながり、くらし・心のよりどころとなる居場所がある
- ③ 未来を担う子供達が遊び、よく学び、笑顔があふれる社会にすることで「いつまでも住み続けられるまちづくり」を実現する。
- ④ 「若い世代」にふるさとの良さを伝え、山形にいてよかった・帰ってきてよかったと思える活動を推進する



#### 具体的目標 だれでも集える居場所、支え合いが実現される居場所づくり

ビジョンの具体的な目標について、「ありたい姿②」にある居場所づくりの課題が提起されました。すでに山形や寒河江では連携した居場所づくりが実践されていますが、新たな具体化も課題となります。今後、居場所づくりも含めた「2030ビジョン」を実現するため、ビジョンの具体的な施策やみちすじについて推進するためのプロジェクトまたは担当を配置してすすめていきます。

\*4R (フォーアール または ヨンアール) とは、資源の消費が抑制され、環境への負荷が少ない「循環型社会」を形成するために必要な4つの取り組みの頭文字をとったものです。Refuse (リフューズ) 必要のないものを断る (例: レジ袋や割り箸を断る)、Reduce (リデュース) ごみを減らす (例: 詰め替え商品を利用する)、Reuse (リユース) 繰り返し使う (例: バザーやおさがり)、Recycle (リサイクル) 再資源化 (例: 資源回収の利用)